

## 平成 19 年度臨時（第 1 回）理事会議事録

日 時： 平成 19 年 4 月 14 日（土） 14：00～16：30

場 所： 東京都夢の島マリーナマリンセンター2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、河野博文、秋山雄治、古川保夫、前田彰一、青山篤、児玉萬平、古屋静男、長田美香子、山田敏雄、小山泰彦、小林昇、安藤淳、松原宏之、倭千鶴子、庄司一夫、豊伸吾（委任：庄司一夫）、小山利男、外山昌一、柴沼克己、都築勝利、中山明、宮崎史康、猪上忠彦、中村公俊、奥村文浩（委任：中村公俊）、名方俊介 以上 27 名、

内委任状 8 名

出席監事：高木伸学 以上 1 名

欠席監事：貝道和昭、浪川宏 以上 2 名

オブザーバー：並木茂士顧問、鈴木保夫参与・会計委員長、川北達也ルール委員長、箱守康之競技力向上委員長、浅野英武外洋統括委員会幹事長、豊崎謙広報委員、日下石巻ヨットクラブ事務局長

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 25 名（内、委任状 2 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光会長が議長となり、平成 19 年度臨時（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、松原宏之、中村公俊の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）

山崎会長から、新理事が気持ちも新たに協力して、会員増強や財政健全化などの重要案件を含め課題に取り組み、またセーリングを楽しむための組織にしていきたいとの挨拶があった。

（前田専務理事）

今年度の基本方針について、プロジェクターを使い説明があった。いろいろと多くの課題が山積みされているが、今年度の基本方針として普及、勝利、文化を三本柱として理事や委員長を中心に活動していきたいとの発言があった。

## < 審議事項 >

### 1) 平成 19 年度 JSAF 組織案について

前田専務理事から資料に基づき、平成 19 年度 JSAF 組織案について説明があった。  
委員長人事に関し、現理事に交代する下記の委員会を含めて承認された。

会員増強委員会	委員長	伊藤宏氏	松原宏之氏
会計委員会	委員長	鈴木保夫氏	安藤淳氏
指導者委員会	委員長	棚橋善克氏	小山泰彦氏

### 2) 名誉総裁・名誉会長・顧問・参与について

前田専務理事から資料に基づき、名誉総裁・名誉会長・顧問・参与について説明があった。名誉総裁 高円宮妃殿下、名誉会長 秋田博正氏、顧問 米澤 一氏、小田切満寿夫氏、並木茂士氏、戸田邦司氏、参与 大谷たかを氏、鈴木保夫氏、戸張房子氏、石橋國雄氏、の各位が提案され承認された。

### 3) 特別加盟団体加盟申請について

中山総務委員長から資料に基づき、石巻ヨットクラブの特別加盟団体加盟申請について説明があった。児玉常務理事より外洋統括委員会でも異議はないとの報告があった。また、庄司理事より、宮城県連と一緒に活動した実績もあり推薦するとの意見が出された。ただ、提出された資料では J S A F に登録するメンバー会員が 20 名に満たないので、メンバー 20 名を確認した時点で特別加盟団体として加盟することで承認された。

### 4) 評議員の変更について

前田専務理事から資料に基づき、評議員の変更について説明があった。宮城県セーリング連盟の庄司一夫氏から勅使河原栄幸氏に変更、また NPO 法人岡山県セーリング連盟の別府誠氏から山崎昌樹氏に変更する旨、提案があり、承認された。

## < 協議事項 >

### 1) 理事会のあり方について

前田専務理事から資料に基づき、年間 5 回（予備 1 回）理事会の予定について説明があった。小山(利)理事より、前もって審議内容が連絡されるかとの質問があり、事務局より 10 日前には、議案が発送されると返答があった。中山理事より、予定では 14 時から 16 時の 2 時間となっているが、議題については、より長い時間の議論も必要ではないか、との意見が出された。水域理事より宿泊などの手配も必要となるとの意見があり、そのような議題が予想される場合には、前もって知らせる旨返答があ

った。

## 2) JSAF メンバー増強と財政健全化

前田専務理事から資料に基づき、JSAF メンバー増強と財政健全化について提案があった。財政健全化については、プロジェクトを発足させて具体的な取り組みを検討することになった。メンバー増強については、本日配布した6ヵ年メンバー登録数推移を参照し、自分の担当する水域などを検討していただき、次回理事会で改善策を討議することになった。小山(泰)理事より、会員増強に関しては、会員増強委員会だけでなく専務理事を中心に、全体で取り組むべき課題である、と意見が出された。専務理事より、財政健全化と同様にプロジェクトを発足させ、全水域理事にも参加して取り組む計画であるとの返答があった。

### < 報告事項 >

#### 1) 平成 19 年度理事会・評議員会の予定等について

前田専務理事から資料に基づき、平成 19 年度理事会・評議員会の予定等について報告があった。過去の実績をベースに議題についても予定として記載している。とくに各水域理事から、各水域の活動状況を報告してもらいたいとの要請があった。

#### 2) 寄付行為と各種規程について

中山総務委員長から新任理事に配布した冊子に基づき、寄付行為ならびに連盟運営諸規程等の主要規程に対する理解を深めて頂くよう説明があった。とくに本年度は評議員選出が重要課題であるとの発言があった。

#### 3) ISAF100 周年と JSAF75 周年について

青山常務理事から資料に基づき、ISAF100 周年ならびに JSAF75 周年キャンペーンについて報告があった。各団体開催のイベントに盛り込んでいただきたい。ヨット普及のために DVD・ビデオを作成する。ジャッジ・レースオフィサー・メジャラーの活動を広報する。記念 Tシャツを販売する。ポスター・J-SAILING・JSAFweb で広報するとの具体的発言があった。

都築理事から、ISAF100 周年ロゴの使用制限はあるのか質問があり、自由に使用できるとの返答があった。

#### 4) ルール委員会活動報告について

川北ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会活動報告があった。特に今回は上告権利否認について説明があった。日本セーリング連盟規程 3【規則 70】の 1において、規則 70.4 に基づき、プロテスト委員会の判決に関し、上告の権利を否認する旨

規定する場合には、レース公示を行う以前に予め連盟の承認を得なければならない。  
また、日本セーリング連盟ナショナル・ジャッジ、ナショナル・アンパイヤ規程 12 条（上告の権利を否認する大会）において、RRS70.4（a）または（b）により上告の権利を否認する大会においては、プロテスト委員会は、A 級ジャッジ 5 名以上（内 1 名はルール委員会が指名する者）にて構成するものとし、事前に連盟の承認を得なければならないものとする規定されている。佐賀県インターハイに向けた各水域の予選で上告権利の否認申請について承認したとの発言があった。

また前田専務理事より、ルール委員会に関連するが、3 月 22 日から 25 日の日本 O P 協会主催のナショナルチーム選考レースで、主催者より急遽、最高審判委員の石井氏がプロテスト委員長として参加することの許可を得たいとの依頼があり、理事会に間に合わないためやむを得ず事後報告となってしまったとの発言があった。

#### 5) 外洋統括委員会組織について

古川外洋統括委員長から資料に基づき、外洋統括委員会組織について報告があった。  
所管水域加盟団体問題点、 ジャパンカップ 2007 進捗状況及び 2008 概要説明、組織構造改革の検討、 外洋統括における財務会計状況、 外洋主催者保険、 IRCレーティング普及などいままで硬直化していた問題点に真剣に取り組んでいける組織体制となったとの発言があった。

#### 6) レース委員会報告

名方レース委員長から資料に基づき、平成 19・20 年度 IRO 候補者推薦委員会の構成、平成 19 年度全日本選手権大会におけるグレード区分、平成 19 年度環境キャンペーン補助金交付金額についてレース委員会報告があった。平成 19 年度環境キャンペーン補助金交付金額については理事会にて承認いただきたいとの発言があり、名方委員長からの内容の説明があり承認された。

#### 7) 共同主催・公認・後援願いについて

名方レース委員長から資料に基づき、共同主催・公認・後援願いについて報告があった。3 大会について公認したとの報告があった。

#### 8) 天皇陛下のヨット記者発表について

河野副会長から資料に基づき、天皇陛下のヨット記者発表について報告があった。  
天皇陛下には昭和 25 年日本ヨット協会が陛下の皇太子時代に献上した「オリンピア・ヨーレ」(葉山御用邸保管)を、3 月 15 日に神奈川県葉山町へ賜った。葉山町への下賜については日本ヨット協会の後継団体である日本セーリング連盟に相談がおったもので、葉山町において「オリンピア・ヨーレ」を 3 月 25 日に竣工する葉山港港湾管理事

務所に展示し、一般の観覧に供するとの発言があった。

#### 9) オリンピック特別・競技力向上委員会報告

山田オリンピック特別委員長から資料に基づき、オリンピック特別及び競技力向上委員会報告があった。2月26日に2007ナショナルチーム選手のプレス発表ならびに懇親会を開催、今年度上半期海外遠征レース及びプレオリンピック日程、ヨーロッパ遠征経過報告について発言があった。

#### 10) 平成19年度叙勲申請について

中山総務委員長から資料に基づき、平成19年度叙勲申請について報告があった。セーリングスポーツを通して社会貢献をしていることを一般社会に認知していただくために、連盟としても叙勲候補者推薦をする。森岡忠美氏(NPO法人滋賀県セーリング連盟顧問)が旧推薦基準(連盟役員経歴20年以上)を満たしているので申請するとの発言があった。

#### 11) ワンデザインクラス計測委員会報告

末木ワンデザインクラス計測委員長の代理として前田専務理事から資料に基づき、ワンデザインクラス計測委員会報告があった。平成19・20年度IM候補者推薦委員会の構成についても説明があった。

#### 12) 3月末予算管理月報について

安藤理事から資料に基づき、平成19年3月末予算管理月報について報告があった。決算暫定で、一般会計次期繰越収支差額は約300万円となっている。オリンピック特別会計に関しては、委託金・助成金決定で変更があるとの発言があった。

猪上理事から、カレンダー作成収支の状況から製作廃止を検討する必要があるのではないかと発言があった。

#### 13) 近畿北陸水域連絡会議報告

中山理事から資料に基づき、近畿北陸水域連絡会議について報告があった。平成19年3月4日に開催された近畿北陸水域連絡会議は、水域構成団体の変更について、国体ブロック選出制の対応について、ISAF100周年キャンペーンについて、レーザー級の国体採用について、富山県連の指定管理者制度への取り組み報告、SS級のトレーニング機会と普及策について、全国大会日程の早期決定について議論したとの発言があった。

#### 14) 平成19年3月31日現在メンバー登録状況

武村事務局長から資料に基づき、平成 19 年 3 月 31 日現在のメンバー登録状況について報告があった。前年度比 352 減の 10,478 名となったとの発言があった。

**15) 平成 18 年度通常(第 2 回)理事会議事録(案)について**

武村事務局長から資料に基づき、平成 18 年度通常(第 2 回)理事会議事録(案)について報告があった。

**16) 平成 18 年度第 2 回評議員会議事録(案)**

武村事務局長から資料に基づき、平成 18 年度第 2 回評議員会議事録(案)について報告があった。

また、理事会出欠は必ず事務局にご回答いただくようお願いがあった。

**17) その他**

山崎会長から、アメリカズカップチャレンジ構想には、まず全力で挑む決意を必要とし、署名運動を開始したい旨、報告があった。

前田専務理事から、メンバー登録数の推移について報告があった。JSAF メンバー増強は財政健全化のベースでもあり、5 月理事会で議論するとの発言があった。河野副会長から、カスカイス ISAF World で東京オリンピック招致活動についてアピールする、またロンドンオリンピックの艇種選定で 470 級を強く推薦するなどの発言があった。

日本ホビークラス協会会長交代について報告があった。

平成 19 年度臨時(第 1 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 19 年 4 月 14 日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 松 原 宏 之

議事録署名人 理 事 中 村 公 俊